

プレスリリース 2023.06.01

富山市ガラス美術館 企画展

日本近現代 ガラスの源流



展覧会名 日本近現代ガラスの源流
会 期 2023年7月8日(土)～10月9日(月・祝)
会 場 富山市ガラス美術館 2・3階 展示室 1-3 (〒930-0062 富山県富山市西町5番1号)
主 催 富山市ガラス美術館
後 援 北日本新聞社、富山新聞社、NHK 富山放送局、北日本放送、
富山テレビ放送、チューリップテレビ
開場時間 9:30-18:00(金・土曜日は20:00まで、入場は閉場の30分前まで)
閉 場 日 第1・3水曜日(ただし8/16(水)は開場、8/23(水)は閉場)
観 覧 料 一般1,200円(1,000円) 大学生1,000円(800円)
※()内は20名以上の団体 ※本展観覧券で常設展も観覧可
【前売券取扱い】 一般1,000円のみ
アスネットカウンター Tel 076-445-5511 / TOYAMA キラリ 1階総合案内

※下記に該当する方は観覧料が無料となります。

○高校生以下の方 ○富山市に住所登録がある70歳以上の方

○お出かけ定期券またはシルバーパスかご提示の65歳以上の方

○身体障がい者手帳、療育手帳、または精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方及びその介助者(1名) ○団体引率者

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

展覧会について

明治以降、国内では洋式ガラス製法が普及し、幅広いガラス製品が生産されるようになりました。そうした中、自らの表現としてのガラス制作に取り組み、芸術としてのガラスの地位向上に奮闘したのが岩田藤七と各務鑛三でした。その後、ガラスによる独自の表現を追求する作家は次第に増えていきます。1950年代から1970年代にかけてはガラス会社に所属する多くのデザイナーが、プロダクト・デザインと美術工芸作品の両方を手掛けて活躍しました。一方で、会社に所属せず、工場と職人を借りる「壺借り」という方法で制作を行う作家や、ガラス会社を経て個人の窯を築く作家も現れはじめます。本展では、1870年代から1970年代前半までのおよそ100年の動きを追いながら、それぞれの時代を切り開いてきた作家達による創造性豊かな作品やプロダクト・デザイン、そして当時の関連資料を紹介し、今日にいたる日本の近現代ガラス芸術の源流を探ります。

出品作品・作家

岩城滝次郎、小林菊一郎、岡本一太郎、明治～昭和初期の氷コップ・醤油差し等、松浦玉圃、岩田藤七、各務鑛三、明道長次郎、高木茂、降旗正男、淡島（小畑）雅吉、佐藤潤四郎、青野武市、各務満、各務クリスタル製作所、岩城硝子工芸部、小川雄平、小柴外一、吉田丈夫、佐々文夫、竹内傳治、佐々木硝子株式会社、株式会社保谷硝子、船越三郎、菅澤利雄、岩田久利、岩田糸子、岩田工芸ガラス株式会社、藤田喬平、益田芳徳、小谷眞三、船木倭帆、他

（展示導線順、会社名は展示作品・資料の制作当時）

QRコードを読み込むことで、本展覧会の概要を多言語にてご覧いただけます。
（日本語、英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語に対応）



お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

展覧会の見どころ

1. 日本の近現代ガラス芸術の流れを追う展覧会

明治以降、時代の大きな移り変わりの中で、日本のガラス芸術がどのように切りひらかれてきたのか。各時代、各作家の重要作品と関連資料からその流れを追う展覧会です。

2. 創造性豊かな作品の数々をご紹介します

ガラス芸術に取り組む作家がまだ少なかった時代、本展でご紹介する作家達は、ガラスという素材や制作方法について独自に研究を重ね、試行錯誤しながら自身の表現を追求しました。それぞれの作家が生み出した創造性豊かな作品の数々をご覧ください。

3. プロダクト・デザインにも注目

1970年代までにガラスによる作品制作を開始した作家達の中には、ガラス会社に所属するデザイナーも多くいました。本展ではガラス作家/デザイナー達によるプロダクト・デザインにも注目します。

日本近現代 ガラスの 源流

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

展示内容

1. プロローグ：近代化における日本のガラス

明治以降、日本におけるガラス製作は近代化の道を歩み始めます。輸入に依存していた板ガラスの国産化を目指して1873年に設立されたのが、国内初の本格的な洋式ガラス工場である興業社でした。1876年には政府が工場を買い取り、官営の品川硝子製造所となりますが、多額の借金を抱えて再び民営化された後、1892年に解散します。事業としては成功を見なかったものの、ここで技術を身に付けた伝習生と呼ばれる職人たちが、その後各地でガラス会社を創業し、日本のガラス産業の発展において中心的な役割を果たします。彼らの尽力により国内で洋式ガラス製法が普及し、生産力と品質も向上していく中、大正期頃より近代ガラス表現の萌芽と言える要素を持つ作品や製品も作られるようになります。ここでは日本の近代ガラス産業の黎明期に関わった作家達が手掛けた作品と、創意工夫に富んだ当時のガラス製品をご紹介します。



1. 岩城滝次郎《金赤色被切子鉢》1914年、岡本硝子株式会社所蔵、撮影：田中祐樹



2. 岡本一太郎《スモーク硝子酒瓶、グラス》1932年、岡本硝子株式会社所蔵、撮影：田中祐樹



3. (左から)《水玉文赤縁なつめ形氷コップ》《吹雪文なつめ形氷コップ》《しのぎ文乳白花縁碗形氷コップ》《めだか文ラップ形氷コップ》大正～昭和初期、個人蔵、撮影：田中祐樹



4. (左から)《イカリソースのソース差し》《三ツ矢ソースのソース差し》《鳥形醤油差し》《樽型醤油差し》《樽型醤油差し》明治後期～昭和、曾根加代所蔵、撮影：田中祐樹

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

2. 近現代ガラス芸術の開拓者：岩田藤七と各務鑛三

岩田藤七と各務鑛三は、昭和初期のほぼ同時期に自身の工房を設立し、自らの表現としてのガラス制作を志した、日本の近現代ガラス芸術の先駆者と言うべき作家です。2人の作品はあらゆる面で対照的です。岩田が溶けたガラスに息を吹き込む「吹きガラス」による表現を行ったのに対し、各務はガラス表面を削って加飾する「グラヴィール」や「カット」によって自身の創造性を発揮しました。また岩田が色ガラスを多彩に用いた作品の制作を目指したのに対し、各務は無色透明のクリスタルガラスによる表現を追求しました。2人はガラス作品が芸術として受け入れられなかった時代に、その芸術性を世間に認めさせるべく試行錯誤し、それぞれ異なる方向性でガラス表現の分野を切りひらいていきます。



5. 岩田藤七《花器》1960年、新宿歴史博物館所蔵



6. 岩田藤七《花器》1960年、新宿歴史博物館所蔵



7. 各務鑛三《宝相華硝子花瓶》制作年不詳、個人蔵、撮影：田中祐樹



8. 各務鑛三《花器》1954年、カガミクリスタル株式会社所蔵、撮影：田中祐樹

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号
 Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310
 Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

3. ガラス作家の増加と戦時体制下のガラス制作

各務鑛三は1934年、クリスタルガラスの素地の生産も行う各務クリスタル製作所を創業します。その際に設置された図案部（デザイン部門）に入社した佐藤潤四郎、降旗正男、淡島雅吉（当時小畑姓）をはじめ、グラヴィールの職場に配属された青野武市や、各務鑛三の息子である各務満など、同社は優れた作家を数多く輩出しました。一方、1932年よりパート・ド・ヴェールと呼ばれるガラス技法の研究に取り組んだ岩城硝子の動向も見逃せません。研究に参加した小柴外一、清水有三、小川雄平らは1936年にこの技法を完成させ、半透明で柔らかな色彩を持つ、幅広いモチーフのガラス作品を発表しています。このように、1930年代後半にかけて次第にガラス作家は増加していきますが、1940年代に入ると、戦時体制の状況がガラス会社の運営や作家達の制作に大きな影響を及ぼしていくこととなります。



9. 佐藤潤四郎《鉄棒硝子吹込花瓶》
1940年、国立工芸館所蔵、
撮影：藤川清



10. 各務クリスタル製作所（左2点）《カップ&ソーサー（ブルー）》
（右1点）《カップ&ソーサー》制作年不詳、個人蔵、
撮影：田中祐樹



11. 岩城硝子工芸部（左から時計回りに）
《パート・ド・ヴェール「鉢」》《パート・ド・
ヴェール「七面鳥」》《パート・ド・ヴェール「鳩」》
《パート・ド・ヴェール「ほうぼう」》
1938年頃、AGCテクノグラス株式会社所蔵、
撮影：株式会社ラプト



12. 岩城硝子株式会社、デザイン：小柴外一
《ばら 大皿》1960年代（デザイン：1930年代頃）、
AGCテクノグラス株式会社所蔵、撮影：株式会社ラプト

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

4. 戦後デザイン振興とガラス・デザイナー

第二次世界大戦後、1950年代に入ると経済復興と欧米文化流入のさなかで現代的な工芸・デザインのあり方を模索する作家達が様々なグループを結成し、作品発表を活発に行いました。また国内におけるデザイナーの職業団体の結成も進みます。ガラス会社のデザイナーの中では各務クリスタルの佐藤潤四郎や保谷硝子の佐々文夫、そして各務、保谷を経て独立した淡島雅吉らが、こうした動向に積極的に関わって重要な役割を果たしました。60年代にかけてはガラス会社に所属する多くのデザイナーが、プロダクト・デザインと美術工芸的な作品の両方を手掛けて活躍し始めます。ガラスによる創作活動が幅広い作家により展開される中、1972年には会社などの所属や立場を越えた本格的なガラスの作家団体として「日本ガラス工芸協会」が結成され、初代会長には岩田工芸ガラスの岩田久利が就任しました。



13. 佐々文夫《オーナメント「APOSTROPHE」》
1955年、佐々瑛子所蔵、撮影：田中祐樹



14. 佐藤潤四郎、カガミクリスタル製作《手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪1964モデル》(左から青、黄、黒、緑、赤)、1964年頃、郡山市立美術館所蔵



15. (左右とも)淡島雅吉《花器・マーバロン》
1966年頃、一般財団法人草月会所蔵、
撮影：田中祐樹



16. 岩田久利《コンポート》1983年、町田市立博物館所蔵

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

5. 個人的創造活動に向けて

1970年代前半まで、ガラス制作を行う作家はガラス会社に所属し、素材を扱う作業を職人に依頼する形で作品制作を行うのが主流でした。一方で、戦後にガラス制作を開始した作家の中には、早い段階から主流とは異なる方法を取る者も現れます。益田芳徳や藤田喬平は、工場と職人を一定時間借りる「壺借り」という方法により、ガラス会社に所属せずに作品制作を行う中で、素材の本質を捉えた新たなガラス造形を展開しました。また倉敷において1人で吹きガラス制作を始めた小谷眞三や、各務クリスタルでの勤務時代に、自由な創作の場を求めて同僚の伊藤孚と共同窯を築いた船木倭帆のように、民藝に関わる作家から自らの手でガラスを扱う動きも出てきます。1970年代後半以降、海外の動向の紹介やガラス教育機関の設立などにより、国内ではガラスを扱う作家のあり方が大きく変化していきませんが、本章で紹介する作家達の活動は、日本の近現代ガラス芸術がすでに転換期を迎えていたことを物語っています。



17. 益田芳徳《神様の散歩》1992年、
富山市ガラス美術館所蔵、撮影：斎城卓



18. 藤田喬平《虹彩》1964年、国立工芸館所蔵、
撮影：エス・アンド・ティ フォト



19. 小谷眞三（左から）《コップ》《手付角瓶》《酒杯》
《酒杯》制作年不詳、作家蔵、撮影：田中祐樹



20. 船木倭帆《モザイク文鉢 青・黄》制作年不詳、
松尾地所株式会社所蔵、©2015 Hachiyama Publishing

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

関連プログラム

開会式

日 時：7月7日（金）16：00 から

会 場：富山市ガラス美術館 2階ロビー、2・3階展示室 1-3

受付は15：30から行います。

開会式終了後は関係者及びマスコミ向けの内覧会を行います。（開会式終了～18：00まで）

記念講演会「品川硝子と近代日本のガラス工芸」

日 時：8月5日（土）14：00～15：00

会 場：富山市ガラス美術館 2階ロビー

講 師：井上暁子氏（ガラス工芸史家）

事前申込不要、参加無料

ワークショップ「モデリングパートドヴェール体験—ガラスで^{そぞう}塑像をしよう—」

日 時：9月3日（日） ①10：00～11：30 ②14：00～15：30

会 場：富山市ガラス美術館 2階会議室1、2

講 師：勝川夏樹（ガラス造形作家）

対 象：小学3年生以上（小学生は要保護者同伴）

定 員：各回8名

参加費：2,500円

※事前申し込み制、応募者多数の場合は抽選

※申し込み方法などの詳細は美術館ウェブサイトをご覧ください。

学芸員によるギャラリートーク

担当学芸員が展覧会や出品作品について、わかりやすく解説します。

日 時：7月22日（土）、8月19日（土）、9月16日（土）、10月7日（土）

各回 14：00から、事前申込不要、参加無料

※展示室への入場には、本展観覧券が必要です。

※関連プログラムの詳細は美術館公式ウェブサイトやSNSなどでお知らせします。

※プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。

最新の情報は美術館公式ウェブサイトをご確認ください。

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

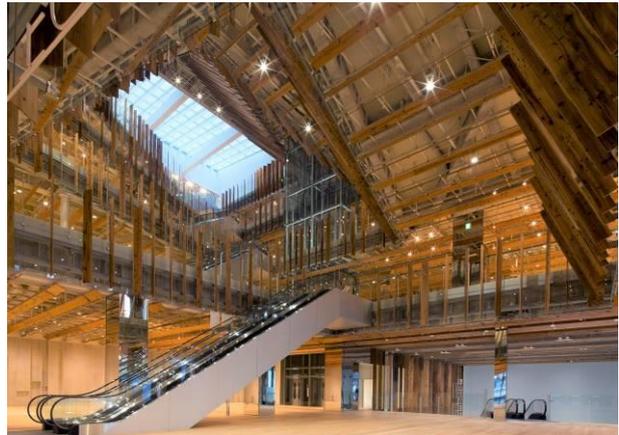
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館概要



21. 富山市ガラス美術館 外観



22. 富山市ガラス美術館 内観

富山市ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの一環として、2015年8月に開館しました。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMA キラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出の役割を担ってきました。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した開放的な空間となっています。

常設展として、アメリカの現代ガラスの巨匠、デイル・チフリー氏によるインスタレーション作品を展示する6階「ガラス・アート・ガーデン」のほか、所蔵作品を紹介する4階「コレクション展」や2階から4階の展示室壁面などに富山ゆかりの作家が制作した作品を展示する「ガラス・アート・パサージュ」があります。また企画展では1950年代以降のガラス・アートを中心に、様々な美術表現を紹介しています。

交通アクセス

[富山駅より]

○徒歩 20分 ○市内電車南富山駅前行に乗り、「西町（にしちょう）」下車、徒歩1分

○市内電車環状線に乗り、「グランドプラザ前」下車、徒歩2分

（富山駅から「西町」「グランドプラザ前」まで約10分）

[富山空港より]

○地鉄バス（富山空港線）「総曲輪（そうがわ）」下車、徒歩4分

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館公式 SNS アカウント



Instagram

アカウント名
toyamaglassartmuseum



Facebook

アカウント名
toyamaglassartmuseum



Youtube

チャンネル名
ToyamaGlassArtMuseum 富山市ガラス美術館

報道関係のお問合せ先

富山市ガラス美術館

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310 E-mail bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp (代表)

広報担当：渡辺、小谷 展覧会担当：中島

広報用画像の貸出しについて

p.4～10 の画像 1～22 を広報用に貸出します。ご希望の方は、p.12 の画像貸出し申請書の使用条件をご確認の上、メールまたは Fax にて上記の美術館広報担当へ申請書をお送りください。

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____

T e l : _____

F a x : _____

E-m a i l : _____

住所： _____

団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「日本近現代ガラスの源流」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください） _____

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

- 画像は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、縦横比の変更、文字のせはご遠慮ください。
- 画像掲出には別途指定するキャプションを必ず入れてください。
- 展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- 商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。
- 画像の2次使用はご遠慮ください。
※画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。
※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。
- 校正ゲラの段階で情報の確認をさせてください。
- 記事が掲載された場合は掲載見本（DVD、掲載紙、掲載誌等）を美術館広報担当へご寄贈ください。

申請書送付先：富山市ガラス美術館 広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax : 076-461-3310

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp